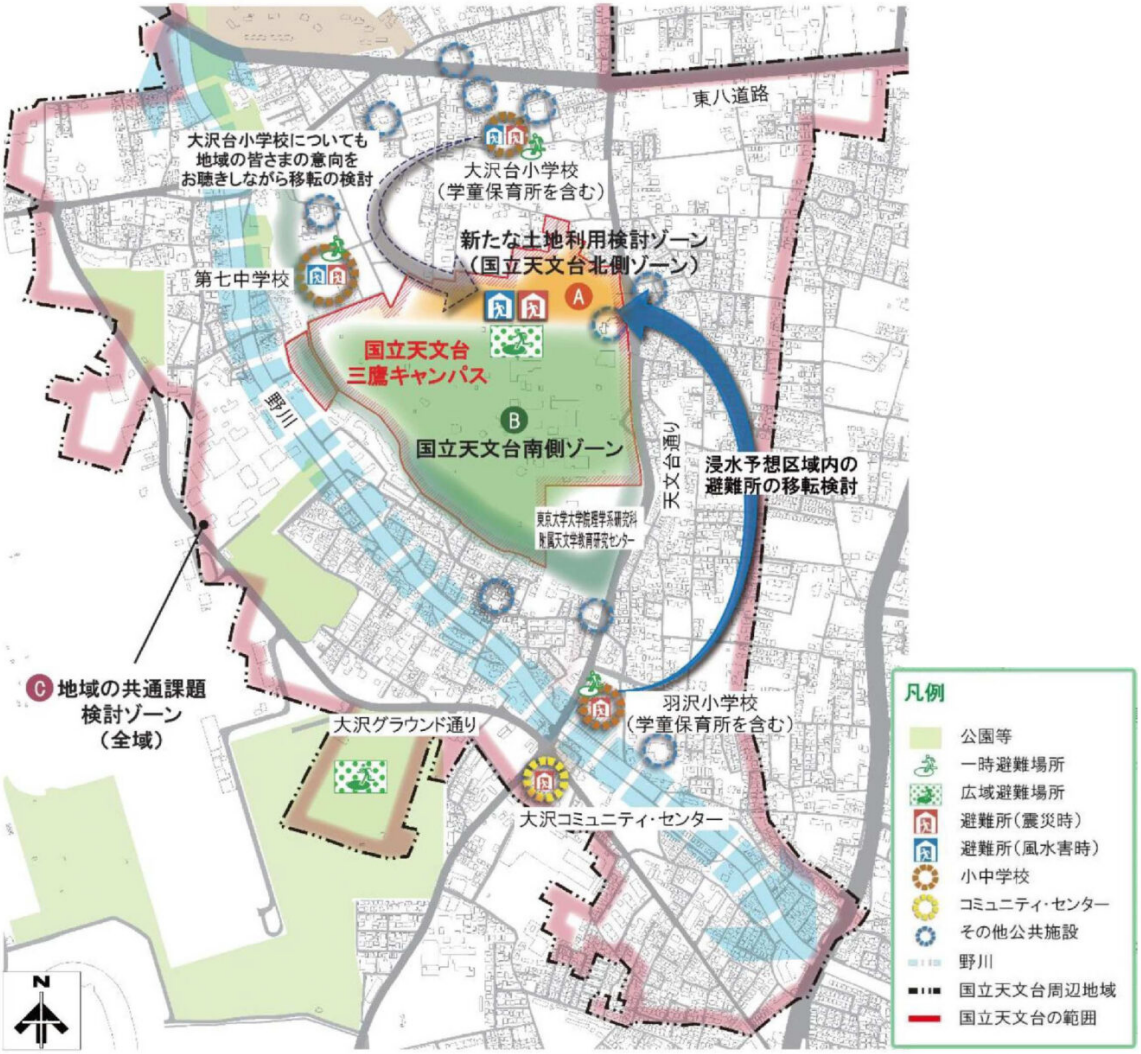
基本方針におけるゾーニングの考え方



A 新たな土地利用検討ゾーン（国立天文台北側ゾーン）

○浸水予想区域内の小学校の移転による新たな防災拠点の創出
○緑地を活かし、地域をつなぐ防災・教育・コミュニティの拠点形成の検討

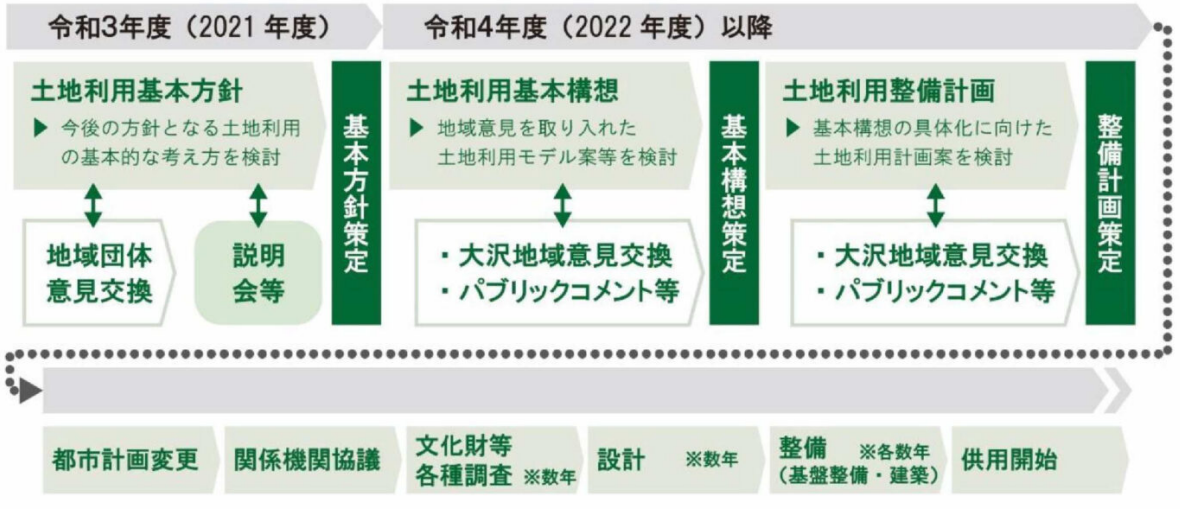
B 国立天文台南側ゾーン

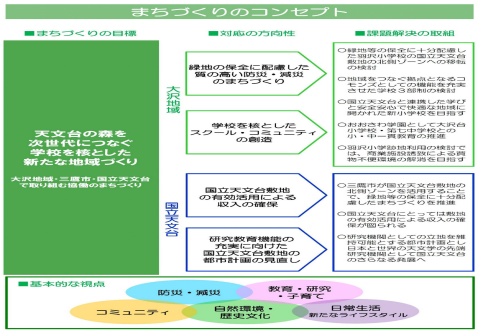
○国立天文台が保有する高度な学術的知識・資源の市民への普及・活用を図りながら、国立天文台の研究教育・公開機能の強化を図る
○歴史的構造物等の保全整備や有効活用を図りながら、観測環境と自然環境の保全を図る

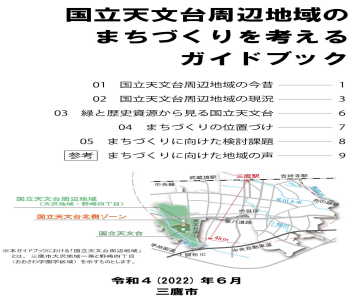
C 地域の共通課題検討ゾーン

○日常生活を支援する商業施設等の機能誘導及び都市計画の見直し等を検討
○スクールバスの運行等を含めた地域を結ぶ移動交通のあり方を検討

今後の進め方







三鷹市　国立天文台周辺地域のまちづくり

国立天文台周辺地域のまちづくりに向けた検討支援

三鷹市においては、国立天文台三鷹キャンパスが大切な緑地となっており、国立天文台周辺地域の野川流域には豊かな自然環境が残る一方で、浸水予想区域内に小学校が立地するなど、防災上の課題を抱えている。そのような中、国立天文台より今後の研究の継続・発展に向けた財源確保に資する敷地北側の有効活用について三鷹市に相談が寄せられ、同敷地を活用して三鷹市・国立天文台が協働でまちづくりに取り組むこととなった。

当社は「国立天文台と三鷹市の相互協力に関する協定」に基づく「国立天文台周辺地域土地利用基本方針」の策定に向け、まちの現況・課題整理、活用敷地の土地利用検討、パネル展示、地域関係者へのヒアリング等の支援を通じて、国立天文台周辺地域における国立天文台の森を活かし、学校を核とするまちづくりのコンセプト、及びゾーニングの考え方を検討し、令和4年6月に基本方針 、及びまちづくりを市民の皆様と一緒に考えていくための「国立天文台周辺地域のまちづくりを考えるガイドブック」を策定した。

所在地	東京都三鷹市
発注者	三鷹市・大学共同利用機関法人自然科学研究機構国立天文台
工期	令和3年6月～現在
備考	https://www.city.mitaka.lg.jp/c_service/097/097323.html

©ICHIURA HOUSING & PLANNING